

進路だより catch

第 75 期生 第 20 号

2021 年 7 月 15 日(木)

大阪府公立高校のアドミッションポリシー(求める生徒像)

学力検査の種類、倍率のタイプが発表されました。

(大阪府教育庁のHPにも掲載されています)

学校名	アドミッションポリシー	選択の種類	学力検査問題の種類			倍率のタイプ
			国語	数学	英語	
東淀川	<p>本校は、伝統に培われた「文武両道」や「自主自立」の精神を大切にしており、多くの選択科目とともに、特徴のあるコースを設置するなど、生徒一人ひとりの多様性を尊重し、その個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実を図っています。夢や希望、そして志を持ち、学びを通じて自らの人生を切り拓き生涯をたくましく生きる力や、人を思いやり社会に貢献する力を身につけようとする生徒を求めます。</p> <p>1) 目的意識を持ってさまざまな活動に取り組み、自分の夢に向かってチャレンジしようとする生徒 2) 本校の教育内容や設置するコースについて理解し、入学後も自ら進んで勉学に励み、学力の向上をめざす生徒 3) 基本的な生活習慣が確立され、高校生活を前向きに送ろうとする強い意志を持った生徒 4) 中学校での活動(生徒会活動や部活動、校外活動、資格取得等)に積極的に参加し、本校入学後もその活動を継続し、成果が期待できる生徒</p>	一般	B	B	B	II
		日本語指導		B	B	

① アドミッションポリシー(学校が求める生徒像)とは・・・
上記のように「こんな生徒に来てほしい」ということを各校が表しているものです。

- 出願時に自己申告書を提出する。(1500字程度)
テーマ「あなたはこれまでの中学校等の生活(あるいはこれまでの人生)でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いませんか。できるだけ具体的に記述してください。」
- ボーダーゾーン***に入った時に判定資料として使用される。
自己申告書の内容がアドミッションポリシーに合致しているかの判定を行う。ボーダーゾーンに入った者のうち、アドミッションポリシーに合致していると高校が判定すれば合格となる。
合致している者で定員を満たせないときは、総合点の高い者から順に合格となる。

※ ボーダーゾーンの決め方・・・

(例) 定員が 200 名るとき

- 総合点^{※2}の高いものから順に並べる。
- 総合点の高い者から募集人員の 90% に相当するものを合格とする。
($200 \times 0.9 = 180$ 総合点の高い者から 180 人までは合格)
- 総合点の高い者から募集人員の 90% ~ 110% に相当する者をボーダーゾーンとする。
($200 \times 1.1 = 220$ 総合点の高い者から 181 人から 220 人をボーダーゾーンとする)

※2 総合点の作り方・・・

一般選抜の場合	学力検査	1 教科 90 点 $\times 5 = 450$ 点	合計 450 点
	評定	1 年の評定 $\times 2 = 90$ 点	
		2 年の評定 $\times 2 = 90$ 点	
		3 年の評定 $\times 6 = 270$ 点	合計 450 点

それぞれの合計点に高校のタイプにより決められた倍率がかけられる。

タイプ	学力検査にかける倍率	評定にかける倍率
I	1.4 倍	0.6 倍
II	1.2 倍	0.8 倍
III	1.0 倍	1.0 倍
IV	0.8 倍	1.2 倍
V	0.6 倍	1.4 倍

(例) 東淀川高校の場合

II 型 \Rightarrow $\boxed{\text{学力検査の合計点} \times 1.2 + \text{評定の合計点} \times 0.8}$

の計算で総合点を作ることができます。

② 学力検査の問題の種類

- 全日制の課程の学力検査は 5 教科(国語・社会・数学・理科・英語)
- 社会、理科はすべての学校が共通の問題
- 国語、数学、英語の 3 教科は各校が A、B、C から選択。

A: 基礎的問題 B: 標準的問題 C: 発展的問題

各校のアドミッションポリシー等が載っている冊子を各クラス 1 冊置きます。自分の行きたいなと思っている学校をチェックしてみましょう。